

首都圏社会人向け研修で農地紹介と先輩支援による就農育成体制を構築

- 担い手不足が進む睦沢町において、オリーブ・水稻・さつまいも等を対象とした研修を実施。
- 3期78名、合計355時間の社会人向け体系研修を展開。
- 相談から農地紹介・援農までの一貫支援体制を整備し、3年間で新規就農者21経営体の創出を目指す取組。

【位置図】



千葉県睦沢町

取組前

- ・睦沢町では、農業者の高齢化と担い手不足が進行し、耕作放棄地や鳥獣被害の拡大が課題。
- ・直近3年間の新規就農者は計12経営体(R3:0、R4:7、R5:5)であり、一定の受入実績はあるものの、地域農業の持続には更なる担い手確保が必要な状況。
- ・都市部からの兼業就農希望者は増加傾向にあったが、相談・研修・農地紹介・就農後フォローが体系化されておらず、社会人が働きながら学べる実践的な通年研修体制の整備の需要。

取組内容

2024年5月～2025年3月に8期・9期・10期の3期を実施し、計78名が受講。

各期115～120時間、合計355時間の体系的研修を実施した。現地実習は各期12～13回（水稻、オリーブ、機械演習、獣害対策等）、オンライン講義20回（経営、農地取得、税務等）を実施。

睦沢町を中心に13拠点で展開し、農地取得支援や先輩農業者による援農体制も整備。

取組後(成果)

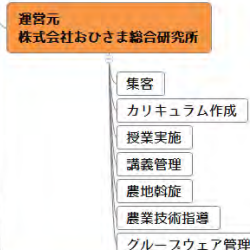
受講者78名中78名（100%）が「就農に役立つ」と回答、71名（91%）が「就農意欲が向上」と回答。

過去3年間12経営体であった新規就農者を、3年間で21経営体（117%）へ増加させる目標を設定。R7は、予測より多い15経営体を達成。

相談から研修、農地紹介、就農準備までの一貫支援体制を確立し、兼業就農モデルの拡大基盤を構築した。

【サポート体制】

チバニアン兼業農学校



新規就農者や研修生の声

- 実習中心の研修で栽培スケジュールや機械操作まで体系的に学べ、自信を持って農地取得と販売開始まで進むことができた。
- 自然栽培や農薬知識、経営や書類作成まで幅広く学べたことで、自分に合った就農計画を具体化できた。

サポート体制構築事業 活用年度：令和6年度

【問合せ先】株式会社おひさま総合研究所

TEL：043-400-0188

E-mail：hirayama@ohisamasoken.com

HP：https://chibanian.info/